

大学生協は協同組合の媒介者になれるか？

大学生協連会長理事 庄司興吉

1 この間の活動

皆さん、おはようございます。四週間前にインドネシアにいましたが、とくに暑かったです。先週は国際学会でスウェーデンにいたのですが、ここでもけっこう暑い思いをさせられました。しかし、日本に帰ってきたら、それらに輪をかけて暑い。もう地球はおしまいなのかもしれません。

そのなかで、前回理事会からの経過を振り返ってこの間の活動を整理してみると、けっこうあります。会長理事というのも、安いお手当てで大変です。5月26日には、JJC（日本協同組合連絡協議会 Japan Joint Committee of Cooperatives）の会合がありました。国際協同組合年を2012年とすることが、昨年末の国連総会で決められたのですが、それに対処するための会合です。その後、そのための準備委員会もありました。

また、6月7日には大学生協共済連の創立総会がありました。生協総研理事会では、公益法人になるための態勢づくりをしています。さらに、6月21日から24日にかけて、インドネシアのジョクジャカルタで、ICA アジア・パシフィック大学生協のワークショップが行なわれました。その後、7月5日にドイツ学生支援協会の事務局長がお見えになり、ドイツ学生支援協会と交流継続の覚え書きを交換しました。その後、スウェーデンのイエーテボリで4年に1回の世界社会学会議があり、帰ってきてすぐ、国際協同組合年準備委員会の3回目の会合がありました。昨日には、生協総研理事会もありました。

2 共済連創立の意味

これらをつうじで感じたことですが、まず、共済連はできてよかったと思います。その後の認可その他も非常にうまく行っているようなので、喜んでいます。

ただ、学生総合共済設立時のことを考えて、確認しておくべきことがあります。学生総合共済は、福武元会長が新時代の大学生協の要にしようとして、学生同士の助け合いの仕組みをつくろうとしたものでした。学生同士の助け合いを明確にし、それを要に教職員を巻き込んだ大学構成員全体の新しい大学生協をつくっていく、というのがそのときの構想でした。学生同士の助け合いを要に全大学構成員の大学生協をつくっていくという点で、学生総合共済はわれわれの命だったのです。その意味では、それを組織的に分離せざるをえないのは大きな苦痛でもあります。

しかし、時代の変化に合わせて、いままでの言葉づかいをすれば、実体と機能の分離、あるいは組織の機能的分離を進めていくことも必要です。組織的な分離をしたうえで機能的な相互連関を進めていく、すなわち共済と大学生協との関係を相互強化の関係に持ち込んでいく、両者を車の両輪のような関係に持ち込んでいく、ことが必要になってきているのです。そういう意味で、大学生協と共済連との新たな

「車の両輪」関係をつくっていき、大学を基盤とする協同組合をいっそう発展させていくことが、必要になってきているとあって良いでしょう。

3 アジアへの大学生協拡大の新段階

次に、アジア大学生協のワークショップですが、これはアジアへの大学生協拡大の新しい段階を画したものだといえます。国際協同組合連盟のアジア太平洋部会 ICA-AP のなかに、大学キャンパス生協のコミッティーができて最初の本格的なワークショップでした。インドネシアで行ないましたので、インドネシアの生協をはじめとして、フィリピン、シンガポール、マレーシア、タイ、インド、韓国などからの参加があり、それに加えて今回初めて、ユネスコからの参加があつて積極的な協力の意思表示もありました。

インドネシアの協同組合省も積極的に協力するということで、非常に良かったと思います。ユネスコでの決議、つまり、大学の発展にとって、教育、研究とならんで学生支援が重要であることを確認するとともに、学生支援のアジア的形態としての大学生協の意義を訴えることに、成功したのではないかと考えています。学生支援のアジア的形態としての大学生協を、アジア各国に広めていく今後の活動の基礎を築いたとあってよいでしょう。

4 ヨーロッパ型との継続的連携の確認

さらにその後、ヨーロッパ型学生支援組織とのあいだで、継続的な情報・意見交換を行っていくことが確認されました。ドイツ学生支援協会 DSW の事務局長に来ていただいて、これまでの経過を踏まえて今後とも情報・意見交換と相互協力を強化してく覚書きを交換したのです。これまでも紹介してきましたが、DSW は独立行政法人の連合体のような組織で、学生および教員を参加させて一緒に運営していくという形をとりながら、寮、食堂、奨学金などを一括運営しています。

ドイツとその他のヨーロッパ諸国では、まったく同じというわけではないのですが、基本的には同じような組織が学生支援をおこなっています。それらの諸組織と連携していくということです。これはこれから、われわれにとっても大きな意味を持っていくことになるでしょう。

学生支援のアメリカ型は、ヨーロッパ型とは違って、大学が寮、食堂、奨学金を直接運営していくなかで、カレッジストアが教科書販売を中心にした物品販売をおこなっていくのが普通です。大学生協は、これらのお店の連合体ともいろいろな交流を重ねてきていますので、こちらともこれから協力関係を続けていくことになるでしょう。世界を見据えながらアジアに重点を置き、協同組合方式の学生・大学支援を広めていく活動をわれわれはしていかななくてはならないわけなので、今回の DSW との交流継続協定はそういう方向への数歩前進であつたといつて良いでしょう。

5 日本における協同組合の連携

日本協同組合連絡協議会 JJC にかんしては、これまで私もウツカリしていまし

た。共済連のほうにはときどき顔を出してきたのですが、JJC のほうの意味はよくわかっていなかったのが実態です。今回初めて出てみて、国連が 2012 年を協同組合年とすることになり、それを日本でどうやっていくかということになると、JJC が中心になる以外にない、ということがわかりました。その意味で、にわかには JJC の重要性がクローズアップされてきたのです。JJC は、日本の協同組合のなかで ICA に加盟している団体の連絡協議会のような組織で、その大きな二本の柱として全中と日生協があります。

そのなかで、これまでの会議の様子を見てみると、生活クラブ生協などが協同組合の意義をいちばん良く考えているようで、そういう内容の発言をしてきています。頭脳集团的役割を果たしてきているといつてよいでしょう。大学生協は本来なら知のセンターにおける協同組合なので、そういう観点からいろいろな協同組合を知的に媒介していかなくてならないのに、どうもそういうことが今まで見えていなかったようです。そういうことが、少しずつわかってきました。生活クラブだけに任せずに、大学生協ももっと積極的に、協同組合の意義とか連携の必要性について、積極的に発言し、やるべきことをしていかなければならないでしょう。

国際協同組合年が国連によって設定されたので、それを日本で具体的にどうやっていくか。JJC が基本的な方針を出してきているのですが、今までの経過を見ると、日本では戦後、農協をはじめとしていろいろな協同組合がつくられた。それにある時期以降は、生協が非常に発達したし、いろいろな共済組織もつくられた。そういう組織が活躍しているにも関わらず、それらの意義が知られていない。だから、協同組合の意義をもっと知らせるのだ、というその程度です。

6 グローバルな市民社会化の意味

それも悪くないと思いますが、世界の情勢が大きく変わってきていて、グローバルな市民社会化が進んでいます。そのなかで、普通選挙定着以前、先進国ですら普通選挙が定着していなかった時代に、労働組合や労働者政党を主体に組み立てられた社会変革構想が、19 世紀から 20 世紀にかけて大きく膨らんだのですが、そのほとんどが失敗した。20 世紀社会主義革命の限界を露呈し、崩壊したのです。ソ連東欧はそこから抜け出し、市民民主主義を取り込み始めています。

中国やヴェトナムは、今のところ経済成長に夢中ですが、中産階級が増えてきていますので、この人たちの要望を踏まえ、遠からず急速に市民化していかざるをえないでしょう。インドは、経済発展の面では中国より遅れているかもしれないのですが、少なくとも形式面ではすでに市民民主主義の国です。その他多くの国ぐにの動向を見ていると、基本的にはグローバルな市民社会化が進んでいかざるをえないでしょう。

それが国際的にどのように現れるか。政治経済的には、市民がその構成を決めた政府、市民的にコントロールされた政府、の連合体が世界経済のあり方を規制していく、危機をコントロールしていく、というふうにならざるをえないでしょう。こういう傾向が、すでに 2008 年の金融危機以降、G7, G8 の範囲を超えて G20 の形で、つまり新興国を巻き込んだ国際協力の態勢で経済を規制していく、というふう

に進んできています。まだまだ非常に不十分ではあるけれども、そうなってきている。私はそういう意味で、ケインズ主義が国際的に復活して、いわば国際ケインズ主義のようなもので世界経済を規制していくことにならざるをえないであろう、と見ています。そういう傾向が現れている。

7 市民の事業としての協同組合の意義

そのなかで、市民の事業としての協同組合の意義をもっと自覚して、進めていかななくてはなりません。大資本とよく言いますけれども、それはもともと大金持ちの市民が始めた事業が拡大し、法人化してコーポレーションになったものです。そういう大資本の横暴を、民主的な政府の国際的な連携でコントロールしていくことが大事なのですが、それと並んで、大金持ちの市民ではなく、普通の市民が出資しあい、民主的に運営していく事業を拡大し発展させていくことも重要なのです。そういう意味で、協同組合の意義が急速に高まってきているのです。

これは、今までそういう事業があったけれども、良く知られていなかったから周知する、というだけの問題ではない。そういう事業の意義が新たに高まってきているから、それをどう理解し、強調した活動をしていかなければならないのか、という問題なのだ。と、そういうことを、私は JJC のなかでも言っているつもりです。そのため、今回、JJC が中心になってつくる、国際協同組合年のための実行委員会の設立趣旨にも、その冒頭に近いところに、「こうした中で協同組合は、市民たちが出資しあい、民主的に運営していく事業体としてますます大きな役割を期待されてきており、またその役割が十分に発揮できるよう改革していく努力が常に必要になっている」という文章が書き込まれました。

これは素晴らしいことで、画期的なことだと思います。そういう実行委員会を、農協や生協が中心になってつくっていくことが明記されている。ただ、その後の経過をみると、その趣旨を具体的な実行に結びつけていくところがまだ十分でないので、そういう趣旨のことも発言いたしました。こういう成り行きのなかで、大学生協は、知のセンターにおける協同組合なのだから、知的リーダーシップを発揮して、協同組合間の連携に貢献していく必要があります。

しかし、大学生協自体、本当に、今私が言ったことを分かっているでしょうか。実態として、学生の多くは、大学に入って生協があれば、いわば利用料として出資金を払い、利用するだけというのが多いのではないのでしょうか。教職員の多くも、積極的にコミットする場合でも、自分の専門の仕事に副次的な、したがってあまり時間を割きたくない事業としてしか考えていないのではないのでしょうか。あいだにあって、生協職員が必死になって生協としての経営を維持し、形を整えてようとしてきている。それが悪く出ると、テクノクラシー化して、「生協業者」になってしまふ。そういうことを繰り返してきていないのでしょうか。

こういう状態で大学生協が、各種協同組合間の連携の仲立ち役など果たせるかどうか、われわれは問わなければならない。国際協同組合年に向けて、本気で考えてみなければならないと思います。大学生協自身が大学を基盤にした協同組合であり、その協同組合がこれからの新しい時代にどういう意味を持つかということを、われ

われが自覚して活動しないと、各種協同組合間の媒体とか繋ぎとかにはとうていならないということです。

8 新しい生協学の構築に向けて

私の専門は社会学ですが、社会学の国際学会などを見ても、1960年代から80年代にかけての現代思想いらい、革新的な理論は出ていないようです。おそらく、米ソ冷戦が終わって以降の世界の大きな動きが、まだきちんと把握されていないからでしょう。

そういうなかで、生協総研は、生協の意味づけをおこない、できれば生協学をつくるという作業を一生懸命やろうとしています。そのために『現代生協論の探求』などを刊行しましたし、これからは研究集会やコロキウムなどを考えているようです。そういうことをふまえて、大学生協が自らを理解し、急展開する事態にどう対応していくのかが、非常に重要になっている。そのことを、皆さんにも考えていただきたいのです。少し長くなりましたが、今日はそういうことを念頭に、これからの議事をぜひ実のあるものにしてほしいと思います。

(全国理事会、2010年7月24日)